

北海道寿都郡寿都町
文献調査報告書

対話の場の状況を町のみなさまにお知らせした
資料一式

2024年11月

原子力発電環境整備機構

2024年11月 発行 原子力発電環境整備機構

本資料を利用する際は出典を記載してください。出典の記載方法は以下のとおりです。編集・加工等して利用する際には、以下の出典表記とは別に編集・加工等を行ったことを記載してください。

(出典の記載例)

原子力発電環境整備機構 (2024) 北海道寿都郡寿都町文献調査報告書

また、第三者（原子力発電環境整備機構以外のものをいいます。以下同じ。）の著作物が含まれる場合（例えば、原子力発電環境整備機構が第三者の図表等を用いて転載・編集・加工等している図表等）には、別途、第三者からの許諾が必要になることがあります。利用者の責任において、第三者が権利を有している部分を確認し、当該第三者から利用の許諾を得てください。

上記は、著作権法上認められている引用などの利用について、制限するものではありません。

対話の場の状況を町のみなさまにお知らせした資料一式

実施回	実施日	テーマ
第1回	2021年4月14日	対話の場とは
		会則（案）について
第2回	2021年6月25日	会則（案）について
		地層処分について思うこと
第3回	2021年7月27日	高レベル放射性廃棄物の地層処分のしくみや概要
		文献調査の進捗状況について
第4回	2021年11月10日	高レベル放射性廃棄物の地層処分のしくみや概要
第5回	2021年12月14日	JAEA幌延深地層研究センター・日本原燃(株)原子燃料サイクル施設の視察について
第6回	2022年1月19日	町民の皆さまに地層処分事業を知って頂くための活動や取り組み
		青森県六ヶ所村の地域住民との交流の進め方について
第7回	2022年2月16日	放射線の基礎知識について
第8回	2022年3月15日	文献調査の進捗状況について
第9回	2022年4月26日	青森県六ヶ所村のこれまでの歩みと現状について
第10回	2022年5月27日	国のエネルギー政策について
第11回	2022年7月21日	文献調査の進捗状況について
第12回	2022年9月21日	フィンランド（エウラヨキ町）のこれまでの歩みと現状について
第13回	2022年11月15日	将来のまちのあり姿について
第14回	2022年12月19日	将来のまちのあり姿について
		文献調査の進捗状況について
第15回	2023年2月21日	将来のまちのあり姿について
		文献調査の進捗状況について
第16回	2023年5月9日	将来のまちのあり姿について
		文献調査の進捗状況について
第17回	2023年9月5日	文献調査について（これまでのふりかえりと経済社会的観点からの検討）

寿都町のみなさまへ

2021年5月
寿都町対話の場 通信 vol.1

4月14日（水）、寿都町総合文化センターウィズコムにて、第1回「寿都町対話の場」が開催されましたので、ご報告します。

【当日の様子】



片岡町長
「多くの町民のみなさまと共に高レベル放射性廃棄物地層処分事業の内容について学んでいきたい」



経済産業省 小澤首席工ネルギー・地域政策統括調整官
「みなさまの様々なご意見をしっかりと受け止め、対話を丁寧に積み重ねていきたい」



■「対話の場」とは

文献調査の実施に当たっては、町民のみなさまとの対話が不可欠と考えています。

そこで、地層処分に関して、その政策や事業概要、地域との関わりなどについて議論を深めていただけよう、町民のみなさまを構成員として設置したものです。

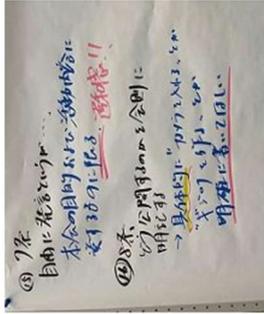
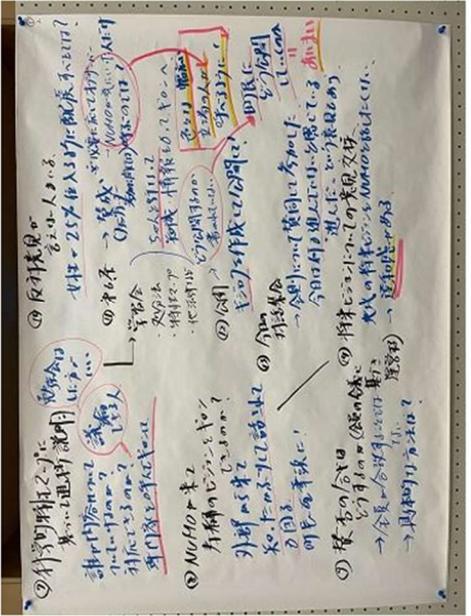
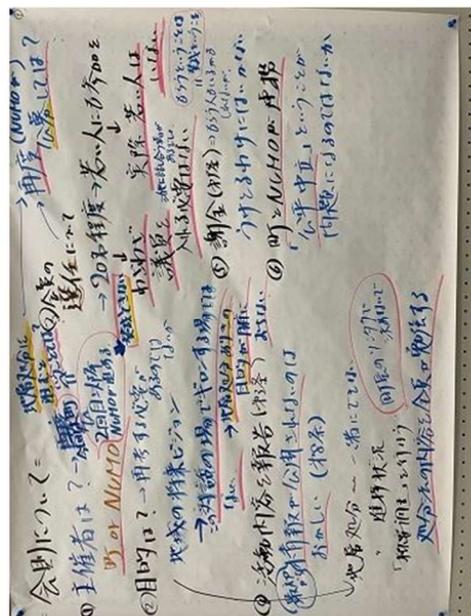
この場の運営については、地層処分事業の賛否に関わらず、自由で率直な意見交換ができるよう、参加員のみなさまのご意見を踏まえながら、改善していきます。



司会進行
北海道大学 大学院
工学研究院 竹田先生

<「対話の場」会員構成>
町議会議員、寿都町漁業協同組合、寿都水産加工工業協同組合、寿都商工会、寿都建設協会、寿都観光物産協会、社会福祉法人（2団体）、町内会、まちづくり団体等のみなさま

- 当日は会員18名が参加。竹田先生の司会進行により、「対話の場」の会則（案）について、会員のみなさまからご意見をいただき、スタッフで模造紙に記載しました。
- 下記のとおり、会の主催者が曖昧、会の目的が処分場誘致ありきのように不適切、議論を公開すべき、この場では意見が言いづらいなどの多くのご意見をいただきました。
- これらのご意見を踏まえ、第2回においても引き続き、対話の進め方をご議論いただくこととなりました。



※これら模造紙は、
 NUMO寿都交流セン
 ターに掲示しています。

• 第1回「寿都町対話の場」の映像は、NUMOホームページでご視聴いただけます。

原子力発電環境整備機構(NUMO)
<https://www.numo.or.jp>

NUMO

トビックス

2021年04月13日 お知らせ

2021年04月13日 お知らせ

神恵内村における対話の場（第1回）のライブ中継のご視聴について

寿都町における対話の場（第1回）のライブ中継のご視聴について

トビックス二館

本チラシに関するお問い合わせ先：原子力発電環境整備機構 NUMO寿都交流センター E-mail: suttu@numo.or.jp
 〒048-0401 寿都町宇新栄町113-1 TEL0136-75-7576 (開館時間：平日10時～17時)
 FAX050-3512-1728

寿都町のみなさまへ

2021年7月
寿都町対話の場 通信vol.2

6月25日（金）、寿都町総合文化センターウィズコムにて、第2回「寿都町対話の場」が開催されました。当日は、①前회のご意見を踏まえた会則（修正案）の議論と②ワークショップ（テーマ「地層処分について思うこと」）が行われました。



片岡町長
寿都町の将来に向けた、みなさまの自由闊達な意見交換に
よって、より良いまちづくりに
資する場となるよう、よろ
しくお願ひします。

①寿都町対話の場の会則（修正案）の議論

第1回対話の場（4月14日開催）や開催後に会員のみなさまからいただいたご意見を踏まえた、会則（修正案）をNUMOより説明しました。会則に反映できなかつたご意見についても、今後の対話の場の運営等にしっかりと活かしていくことをご説明し、みなさまのご了解をいただきました。
決定した会則はNUMOホームページ※で公開しています。
※裏面下段をご参照ください。また、寿都交流センターでもご説明させて頂きますので、お立ちよりください。



対話の場（ワークショップ）の様子
当日は会員18名のうち13名が参加されました。



ファシリテーター
北海道大学 大学院 工学研究院
客員教授 竹田 宜人先生

②ワークショップ

テーマ「地層処分について思うこと」

前回に引き続き、北海道大学の竹田先生をファシリテーターに迎え、今回は「地層処分について思うこと」をテーマに意見交換を行い、会員のみなさまから率直なご意見・ご質問を多数いただきました。これらを、今後の対話の場や町内における諸活動に活かしていきます。

会員のみなさまから出された、すべてのご意見・ご質問を裏面に掲載しましたので、ご覧ください。



「地層処分について思うこと」を、会員のみなさまが付箋に記載し、模造紙に貼りだしました。

この模造紙は、NUMO寿都交流センター入口に掲示してあります。
(NUMOホームページでもご覧いただけます)

ご意見の分類	<p>会員のみなさまより付箋にお書きいただいたすべてのご意見・ご質問（付箋の内容を原文のまま転記しています）</p> <p>報道を入れたの公開では発言がにくい。</p> <p>この対話の場の必要性が良く判らない。</p> <p>若い世代の人も対話の場に参加できるようにしたほうがいいのでは</p> <p>対話の場の補充メンバーを団体の代表とではなく一般町民の希望者から選出※ただし意見の片やがないようにしてほしい</p> <p>文献調査の進捗状況について説明を詳しくお願いしたい。</p> <p>文献調査がどのように進んでいくのか？</p> <p>文献・概要調査は全国で最大何ヶ所まで応募受付するつもりなのか？そのうち精密調査は何ヶ所行なうつもりか？</p> <p>精密調査は1ヶ所で総額いく位を想定しているのか 幅延などを例として実際に今までの位費用がかかったのか？</p> <p>精密調査に進むためには地元同意以外にどのような条件をクリアする必要があるのか 地理的環境・要素などある程度を列記して説明してほしい</p> <p>幅延の実験施設の実験データ等（調査結果）の情報を公開してほしい（知りたい）。出来る範囲で構わない。（施設も含む）当初の計画を途中で変更せざるを得なかった事等（原因・結果等）もあつたのか、なかったのか？</p> <p>地層処分事業について、いまひとつ理解出来ないもので、これからの勉強の場で、やさしく説明を頂きたい。</p> <p>地層処分の安全性について具体的にわかりやすく説明してほしい</p> <p>地層処分の内容がまだよく判らない。（安全性？）</p> <p>NUMOは、どんな事をする会社？地層処分って本当に安全なのか</p> <p>低レベル放射性廃棄物についての説明がない</p> <p>先日議会で話題になった様に幅延実験センターの視察をし、地層処分の実体をこの目で確認してみたい。</p> <p>六ヶ所村、幅延町の美態を把握すべく現地に行ってみてほしいのか。</p> <p>地層処分事業について、理解を進める上で、実際にはどの様なものなのか 視察をする事も必要ではないか？賛否とは全く関係せず、まずは理解する事。ある程度のイメージをつかめる様な案はないか？（視察、映像等）</p> <p>専門家を招いて勉強会を開催して知識を深めたい</p> <p>中高生の意見を聞いてみたい。</p> <p>対話の場以外にも若い世代の人たちが議論する場があつていいのでは！</p> <p>事業について町の人に広く知ってもらつた方がいいのでは。</p> <p>子供達にもわかりやすく学べる機会があつたほうがいいのではないだろうか</p> <p>今回の文献調査により町民の多くが寿都の未来を考える様になつた。話し合いの場をたくさん作って下さい。千載一遇のチャンス！！</p> <p>町民にも不安に思つた所が有り少しでも安心出来る機会や情報の発信を</p> <p>NUMOの事務所をもっと活用するべき</p> <p>NUMOでビデオ(学習用の) などがあるなら、TVをつつで流せます</p> <p>メディアの姿勢</p> <p>(不安)町民の分断</p> <p>何を言つてもNUMOの方針通りに進むことがとても不安！</p> <p>文献調査の賛否を問わず町の状態が二分化されていると思いますが、国はどうお考えになつているのか？</p> <p>町民の中には核のゴミが来るものだと強く思いこんでいる人が多く少しでもふつよししてほしい。</p>
対話の場	<p>説明してほしいこと</p> <p>地層処分の安全性について具体的にわかりやすく説明してほしい</p> <p>地層処分の内容がまだよく判らない。（安全性？）</p> <p>NUMOは、どんな事をする会社？地層処分って本当に安全なのか</p> <p>低レベル放射性廃棄物についての説明がない</p> <p>先日議会で話題になった様に幅延実験センターの視察をし、地層処分の実体をこの目で確認してみたい。</p> <p>六ヶ所村、幅延町の美態を把握すべく現地に行ってみてほしいのか。</p> <p>地層処分事業について、理解を進める上で、実際にはどの様なものなのか 視察をする事も必要ではないか？賛否とは全く関係せず、まずは理解する事。ある程度のイメージをつかめる様な案はないか？（視察、映像等）</p> <p>専門家を招いて勉強会を開催して知識を深めたい</p> <p>中高生の意見を聞いてみたい。</p>
活動の提案	<p>対話の場以外にも若い世代の人たちが議論する場があつていいのでは！</p> <p>事業について町の人に広く知ってもらつた方がいいのでは。</p> <p>子供達にもわかりやすく学べる機会があつたほうがいいのではないだろうか</p> <p>今回の文献調査により町民の多くが寿都の未来を考える様になつた。話し合いの場をたくさん作って下さい。千載一遇のチャンス！！</p> <p>町民にも不安に思つた所が有り少しでも安心出来る機会や情報の発信を</p> <p>NUMOの事務所をもっと活用するべき</p> <p>NUMOでビデオ(学習用の) などがあるなら、TVをつつで流せます</p> <p>メディアの姿勢</p>
心配していること その他	<p>(不安)町民の分断</p> <p>何を言つてもNUMOの方針通りに進むことがとても不安！</p> <p>文献調査の賛否を問わず町の状態が二分化されていると思いますが、国はどうお考えになつているのか？</p> <p>町民の中には核のゴミが来るものだと強く思いこんでいる人が多く少しでもふつよししてほしい。</p>

※会員のみなさまからのご意見・ご質問をまとめてみました。

第2回「寿都町対話の場」における会則など配付資料や映像、上記付箋などは、NUMOホームページでご覧いただけます。

NUMOホームページトップ下段、
「文献調査の実況」→「文献調査実施中の地域」→「寿都町」→
「これまでの経緯」→「2021年6月25日 対話の場（第2回）を開催」
原子力発電環境整備機構(NUMO)
<https://www.numo.or.jp>



第2回 2021/6/25(金)
配付資料 (PDF形式: 2.10MB)
※印刷については、各項目で各章が分かれたものを参照
配信映像 (YouTubeへリンクします)

お問い合わせ先：原子力発電環境整備機構 NUMO寿都交流センター E-mail: sutu@numo.or.jp
〒048-0401 寿都町宇新栄町113-1 (TEL)0136-75-7576 (FAX)050-3512-1728 (開館時間：平日10時～17時)

②文献調査の進捗状況について

※文献調査は机上の調査で、

ポーリングなどの現地調査は行いません。

また、文献調査をはじめ約20年程度の全調査期間中において、放射性廃棄物は一切持ち込みません。

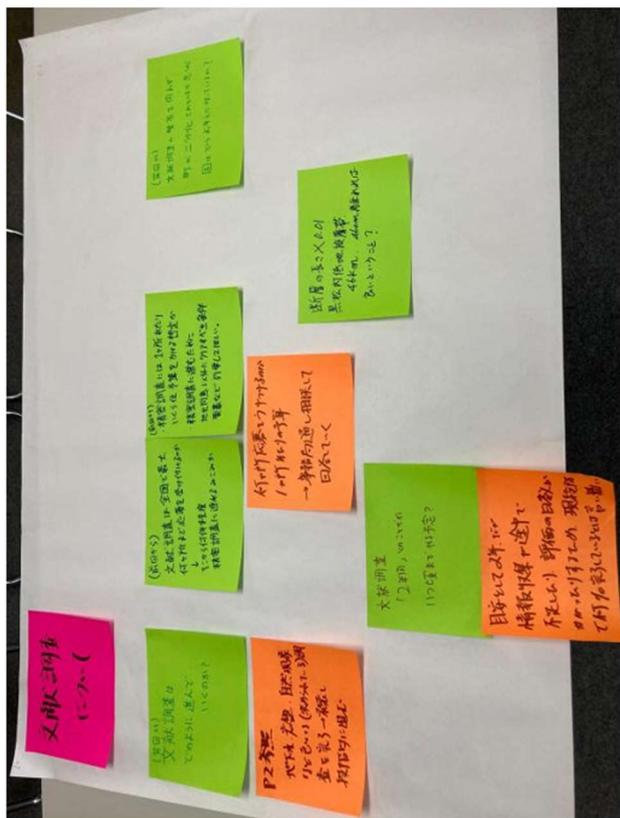
<文献調査の流れ>

(1) 文献調査の開始 (2020年11月17日開始)

現在、地質図などの
「文献・データの収集」
を行っている途中です。

(3) 文献・データに基づく評価

(4) 報告書の作成

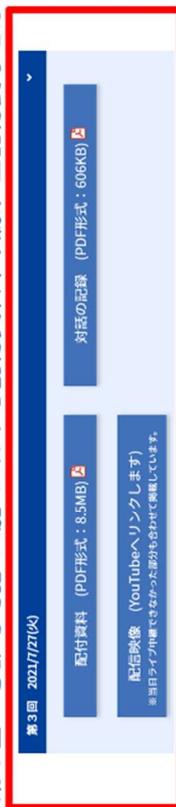


会員のみなさまがご質問・ご意見を付箋に記載したものを模造紙に貼りだしました。
この模造紙は、NUMO寿都交流センター入口に掲示してあります。
(NUMOホームページでもご覧いただけます。)

<ご参考：「町の将来に向けた勉強会」について>

前回の対話の場での議論を踏まえて、寿都町の将来に向けた勉強会を実施することとなりました。有志の町民のみなさまにご参加いただき、自由で幅広い話し合いをしていただければと考えております。
現在、16名の方にご応募をいただいておりますが、ご興味・ご関心がある方は、随時参加受付をしておりますので、引き続きのご応募をお待ちしております。

第3回「寿都町対話の場」における配付資料や映像、上記付箋などは、NUMOホームページでご覧いただけます。



NUMOホームページトップ下段、
「文献調査の状況」→「文献調査実施中の地域」→「寿都町」→
「これまでの経緯」→「2021年7月27日 対話の場(第3回)を開催」
原子力発電環境整備機構(NUMO)
<https://www.numo.or.jp>

NUMO 検索



お問い合わせ先 (寿都町対話の場事務局)：原子力発電環境整備機構 NUMO寿都交流センター E-mail: suttu@numo.or.jp
〒048-0401 寿都町宇都新町113-1 TEL:0136-75-7576 (FAX)050-3512-1728 (開館時間：平日10時～17時)

寿都町のみなさまへ

2021年12月
 寿都町対話の場 通信vol.4

11月10日(水)、寿都町総合文化センターウィズコムにて、第4回「寿都町対話の場」が開催されました。
 ・前回(7/27)に引き続き、高レベル放射性廃棄物の地層処分について、NUMOよりご説明し、
 会員のみなさまからいただいたご質問に対して、回答しました*。
 ・会員のみなさまより、対話の場で取り上げたいテーマなど、今後の進め方についてご意見をいただきました。

「対話の場」でいただきましたご意見は、議論の輪を広げるための今後の取り組みに活かしてまいります。
 ※ご質問への回答につきましては、ポイントをまとめた上で、別途お知らせします。

会員のみなさまからのご意見

- 地層処分についていろいろな立場の専門家を呼んでシンポジウムを開催してはどうか。
- まだまだ多くの町民が地層処分について勉強できていないのが実態。広く町民にも地層処分事業について説明していく必要があると思う。
- 多くの町民が学ぶことができるよう、参加しやすい機会づくりなどを検討していく必要がある。
- また、子どもたちに向けても、教育委員会や学校と協議をして、学習できる機会を作ってほしい。

事務局にて、検討・準備を進めることになりました。

施設見学の実施について

対話の場の会員が、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構(JAEA)幌延深地層研究センターと日本原燃(株)高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター(六ヶ所村)の視察を行うことになりました。
 視察した結果などにつきましては、今後の対話の場通信などでご報告いたします。

<その他ご案内>

- ・これまでの対話の場を記録したDVDをご用意いたします(12/8~)。ご希望の方はお気軽に、寿都町対話の場事務局(NUMO寿都交流センター)までご連絡ください。(TVSテレビずつ放送でも、第4回対話の場の様子を放映いたします(12/5、12/13、12/21))
- ・第4回「寿都町対話の場」における配付資料や映像、上記付せんなどは、NUMOホームページ、NUMO寿都交流センターでご覧いただけます。



NUMOホームページはこちら

原子力発電環境整備機構(NUMO)
<https://www.numo.or.jp>

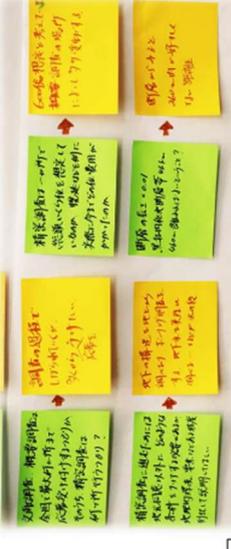
NUMO 検索

NUMO トップページから、以下の順にクリックしてください。
 「文献調査の実施中の地域」→「寿都町」→
 「これまでの経緯」→「2021年11月10日 対話の場(第4回)を開催」

お問い合わせ先：原子力発電環境整備機構 NUMO寿都交流センター E-mail: suttu@numo.or.jp
 〒048-0401 寿都町字新栄町113-1 (TEL)0136-75-7576 (FAX)050-3512-1728 (開館時間：平日10時~17時)



対話の場の様子
 (当日は、会員16名のうち13名が参加されました)



会員のみなさまからのご質問と回答を模造紙に貼りました。
 この模造紙は、NUMO寿都交流センターに掲示してあります。
 (NUMOホームページでもご覧いただけます)

第5回「寿都町対話の場」開催（12月14日）

「幌延町（12/2）」・「青森県六ヶ所村（12/4）」にある高レベル放射性廃棄物の地層処分に関わる施設などを視察した会員からの報告と意見交換が行われました。

① JAEA幌延深地層研究センター（幌延町）の視察

【施設の概要】

2001年より、高レベル放射性廃棄物の地層処分技術に関する研究開発を行っており、地下350mまで掘削された地下坑道では、地層処分の技術的な信頼性を確認するための試験研究を行っています。

幌延深地層研究センター外観
JAEA提供



見学施設 ゆめ地創館



実物大の人工バリア



地下350mの坑道



<「対話の場」での視察報告と意見交換>

地下350mには、100万年前の水が閉じ込められていたなど、一般の人には想像できない地下の研究が進んでいると感じた。

（地下は常に換気されており、地下の温度は年間を通じて一定の範囲内に保たれていると聞いた。）
賛成、反対にかかわらず、一般の人がこの問題に関心をもち、一度は見学してもらいたい。

大変興味を持った。次に行く人は、事前勉強した上で視察に行くともっと理解が深まるはずだ。

「安心、安全」という言葉を何度も耳にしたが、逆に不安に感じることがあった。

全国的な議論になるように、研究の成果をもっと公表・普及するべきだと思う。

施設での研究は、北海道と幌延町とJAEAの3者で締結している協定に基づき行っており、当初、研究期間は20年程度としていたが、残された課題があるということで、2020年度より9年延長されたと聞いた。

<対話の場事務局より>

対話の場でのご要望などを踏まえ、今後も「幌延町」や「六ヶ所村」などの視察や交流会などの実施を検討していく考えです。

（裏面は「②日本原燃(株)原子燃料サイクル施設(青森県六ヶ所村)の視察」)

寿都町のみなさまへ

2022年2月
寿都町対話の場 通信vol.6

第6回「寿都町対話の場」開催（1月19日）

地層処分事業に関する安全対策や昨年12月に会員が視察した青森県六ヶ所村の地域住民との交流の進め方などについて、意見交換が行われました。

👉 町民のみなさまに、地層処分事業のことを、知っていただくための活動や取り組みについて、意見交換が行われました。

① 町民のみなさまに對話の場の報告を行うための「寿都町対話の場通信」について、ご意見を伺いました。

会員のみなさまからのご意見

・読み手によっては、横書きのほうがよかったり、縦書きのほうがよかったりするので、誰が読み手かを考えながら作ったほうがよいのでは。

② 「地層処分とは？」「文献調査とは？」ということなどを、もっと身近に感じていただけるパンフレットの作成について、ご意見を伺いました。

会員のみなさまからのご意見

- ・興味をもってもらうため、キャラクターを使ったらどうか。
- ・専門用語など言葉が難しく理解しにくいので、言葉の意味や町民からのいろいろな質問に、そのキャラクターが答えるような形にしたらどうか。
- ・町民は「対話の場で何を話しているのか」について興味があるのだから、対話の場をすべて公開すれば、パンフレットなど不要なのではないか。

いただいたご意見を踏まえ、さらに工夫・検討し、より分かりやすいものとして、作成を進めてまいります。

👉 「地層処分を推進する方、慎重な方と両方の専門家から話を聞きたい」とのご意見について、事務局より回答しました。

開催時期の目途（春以降）についてお示しし、会員のみなさまに了解をいただきましたので、開催に向けて準備を進めてまいります。



第6回「対話の場」の様子



いただいたご意見は、NUMO寿都交流センターに掲示してあります。
(NUMOホームページでもご覧いただけます)

👉 地層処分事業について、NUMOが安全性を確保するため、どのような対策を考えているか、ご説明しました。

ご説明資料（一部）をご紹介します。

※ご説明資料は、NUMO寿都交流センターにございますので、ご希望の方はお気軽にお問い合わせください

◆身の回りの放射線被ばく



◆放射線や放射能のいろいろな単位



◆地層処分のしくみ



地層処分の事業内容について、さらに理解を深めるためには「放射線」の知識が必要であり、次回、専門家から、より分かりやすくお話いただくことになりました。

👉 「青森県六ヶ所村」を視察した会員から、「六ヶ所村の地域住民と交流してみたい」とのご要望を受け、交流にあたり「どんなことを聞いてみたいか」について意見交換が行われました。

会員のみなさまからの主なご意見

- 核燃料サイクル施設などが建設されたこれまでの経緯の中で、地域の方々がどのように考え、今どのように思っているのかを聞きたい。
- 議員の方に、これまでの意思決定のプロセスや誘致のメリット・デメリットについて聞きたい。
- 漁業、福祉、宗教関係などに従事する方に、施設を受け入れた後、どんな影響があったのかを聞きたい。特に、町の将来を担う若い漁業者には、できるだけ早く六ヶ所村の同業者と交流してもらいたい。
- 子育て世代の方々に、核燃料サイクル施設などが身近にあること、またそこで働くことに不安はないのか聞きたい。また一生、六ヶ所村に住み続けるつもりなのかを聞きたい。

様々なご意見・ご要望を整理し、引き続き協議していくことになりました。また、漁業関係者のみなさまは、交流できる時期が限定されるため、まずは先方との調整を始めることになりました。

「対話の場」における配付資料や映像などは、NUMOホームページおよびNUMO寿都交流センターでご覧いただけます。また、記録したDVDもご用意しますので、ご希望の方はお気軽に、寿都町対話の場事務局（NUMO寿都交流センター）までお問い合わせください。



原子力発電環境整備機構(NUMO)
<https://www.numo.or.jp>

NUMOホームページはこちら

NUMO

検索

■NUMO トップページから、以下の順にクリックしてください。
 「文献調査の状況」→「文献調査実施中の地域」→「寿都町」→
 「これまでの経緯」→「2022年1月19日 対話の場（第6回）を開催」

お問い合わせ先：原子力発電環境整備機構 NUMO寿都交流センター E-mail：suttu@numo.or.jp

〒048-0401 寿都町字新栄町113-1 (TEL)0136-75-7576 (FAX)050-3512-1728

(開館時間：平日10時～17時)

寿都町のみなさまへ

2022年3月
寿都町対話の場 通信vol.7

第7回「寿都町対話の場」開催（2月16日）

- (1) 第3、第4の文献調査候補地に手を挙げてもらえるよう、国が前面に立って取り組んで欲しいとの意見が出されました。
- (2) 青森県六ヶ所村の地域住民との交流は、施設誘致からの経緯をご存じの方からお話を伺う方向で、取り組んでいくことになりました。
- (3) 「放射線の基礎知識」について、専門家にお話しいただきました。

🏠国が前面に立って第3、第4の文献調査候補地の開拓を

【会員からのご意見】

地層処分事業（文献調査）に町民の目や耳を向けてもらうためには、寿都町や神恵内村の他にも、全国のどこかで文献調査に手を挙げてくれることが必要。

そうなれば、町民も安心できるだろうし、議論もさらに活発になり、国民的な議論となっていこう。

そのためには、国が前面に立って、第3、第4の候補地の開拓に努めていただきたい。本件について町長、国、NUMOの想いを聞かせて欲しい。



片岡町長

より良い勉強の仕方や住民の理解が深まっていく状況が全国に発信され、文献調査に応募する「仲間」が増えていけば、一石を投じた意味がある。それには町民が自然体で勉強している姿を全国に発信していくことが必要。



経済産業省 資源エネルギー庁
電力・ガス事業部
放射性廃棄物対策課 下堀課長

第3、第4の地域での文献調査の開始に向け、しっかりと取り組むことは国としても重要と考えている。全国での説明会や個別の自治体とも相談を進める中、関心を持つ方々も増えてきている。例えば、長崎県対馬市の商工会や福井県嶺南地域の地方議会議員などが勉強会等を実施する姿が報道もされている。

引き続き、国が前面に立ち、文献調査に手を挙げていただける地域が出てくるよう、しっかりと取り組んでいきたい。



NUMO
伊藤理事

全国各地で開催の対話型説明会などにおいて、「原子力発電で起こした電気を使ってきた一人ひとりがこの問題に向き合い関心を高めてもらいたい」、「ぜひ多くの自治体に文献調査を受け入れていただくよう取り組む」と強調している。NUMOは体制を強化し、対話活動を全国に広げていくため、組織を挙げて取り組んでいく。

🏠青森県六ヶ所村の地域住民との交流は、施設誘致からの経緯を知る方などから

「核燃料サイクル施設誘致から現在に至るまでの背景や経緯について、まずは、当時の事情、背景や経緯をよくご存じの方から話を聞くのはいかがでしょうか」と事務局から提案し、その実現に向けて、前向きに調整していくことになりました。

🏠 「放射線の基礎知識」について、放射線の測定実験を交えながら、お話しいただきました。



＜講師＞飯塚 裕幸（いづか ひろゆき）先生

東京大学 工学系・情報理工学系等環境安全管理室 特任専門員

【参考】YouTube「エネ百科」において、放射線に関する動画を多数寄稿



【説明のポイント】

- わたしたちは毎日の暮らしの中で、食物や宇宙、大地をはじめ、病院での胸部X線検査など、身近なものから放射線を受けている。
- わたしたちの体の中にも、放射性物質が存在している。
- 放射線のリスクを考える場合、被ばくの有無ではなく、被ばく量に着目することが大事。

＜説明資料の一部をご紹介します＞

※説明資料は、NUMO寿都交流センターにございますので、ご希望の方はお気軽にお問い合わせください。



【実験の様子】



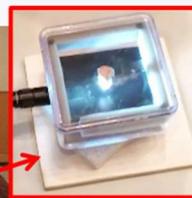
花こう岩の放射線量の測定



はかるくん
放射線を測定する
機器



きり箱で放射線が通った跡を見る実験



きり箱
放射線が通った跡
を検出する装置

【会員からのご意見】

- ・ 本当にわかりやすくて良かった、このような話を町民の方にぜひ聞いてもらいたい。
- ・ このような基礎知識が一番大事だと思う。このような噛み砕いたものを町民に勉強していただくことが大切。

「対話の場」における配付資料や映像などは、NUMOホームページおよびNUMO寿都交流センターでご覧いただけます。また、記録したDVDもご用意しますので、ご希望の方はお気軽に、寿都町対話の場事務局（NUMO寿都交流センター）までお問い合わせください。



原子力発電環境整備機構(NUMO)
<https://www.numo.or.jp>

NUMOホームページはこちら

NUMO

検索

■NUMO トップページから、以下の順にクリックしてください。
「文献調査の状況」→「文献調査実施中の地域」→「寿都町」→
「これまでの経緯」→「2022年2月16日 対話の場（第7回）を開催」

お問い合わせ先：原子力発電環境整備機構 NUMO寿都交流センター E-mail : suttu@numo.or.jp

〒048-0401 寿都町字新栄町113-1 (TEL)0136-75-7576 (FAX)050-3512-1728

(開館時間：平日10時～17時)

寿都町のみなさまへ

2022年4月
寿都町対話の場 通信vol.8

第8回「寿都町対話の場」開催（3月15日）

文献調査の進捗についての報告と意見交換が行われました。

🏠 寿都町を対象に行われている文献調査は今どのような状況か

「文献調査」とは？

ボーリングなどを含む現地調査（概要調査）の事前調査であり、現存する様々な地質に関する文献やデータを収集・分析し、地層処分に適していない場所の除外などを行います。

【ポイント】

- あらゆる文献・データを収集するにあたって、現地での聞き取りも実施しました。
- 文献・データの収集と情報の抽出・分類・整理を概ね終了しました。
- 今後、収集した文献・データをもとに、火山や活断層などに関する評価を行い、報告書にまとめます。

<文献調査の流れ>

(1) 文献調査の開始 (2020年11月17日開始)

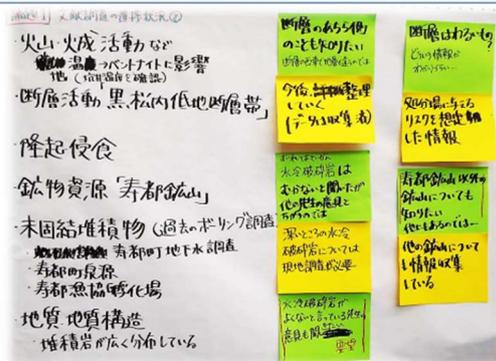
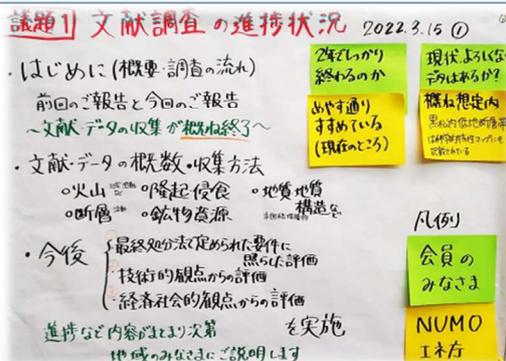
(2) 文献・データの収集

今ここ!!

(3) 文献・データに基づく評価

(4) 報告書の作成

文献調査の工程のうち、
「文献・データの収集」
が、概ね終了しました。



説明資料やいただいたご意見（模造紙）は、NUMO寿都交流センターに
ございます。（NUMOホームページでもご覧いただけます。）

≡説明のあと、質疑応答が行われました≡

【主なご意見・ご質問】

■文献データの収集が終了とのことだが、文献調査は2年で終わるのか？

⇒文献・データの収集が概ね終了しましたが、次の工程の、文献・データに基づく評価は、日本では初めての取り組みとなりますので、現時点では2年で終わると断言できない状況です。

■文献調査だけで、岩盤の強度などが分かるものなのか？

概要調査に進んでボーリングをしてみないことには、寿都町が地層処分に適しているかどうか、分からないのでは？

⇒文献調査は、収集した文献・データに基づき、火山や活断層などに関する評価を行い、明らかに、地層処分に適さない場所を除外することなどが目的ですので、町全体が地層処分に適しているかどうかを評価するものではありません。

なお、文献・データがない場合、調べたいところの岩の強度などは、類似した岩のデータから推定することになります。したがって、実際に強度がどれくらいあるかは、ボーリングなどの概要調査を行う必要があります。



<お知らせ>

地層処分事業がどのような事業であるのか、町民のみなさまに知っていただくために**パンフレットの作成を進めています**。後日お配りしますので、ぜひご覧ください。（表紙はイメージです）



「対話の場」における配付資料や映像などは、NUMOホームページおよびNUMO寿都交流センターでご覧いただけます。また、記録したDVDもご用意しますので、ご希望の方はお気軽に、寿都町対話の場事務局（NUMO寿都交流センター）までお問い合わせください。



原子力発電環境整備機構(NUMO)
<https://www.numo.or.jp>

NUMOホームページはこちら

NUMO

検索

■NUMO トップページから、以下の順にクリックしてください。

「文献調査の状況」→「文献調査実施中の地域」→「寿都町」→

「これまでの経緯」→「2022年3月15日 対話の場（第8回）を開催」

お問い合わせ先：原子力発電環境整備機構 NUMO寿都交流センター E-mail：suttu@numo.or.jp

〒048-0401 寿都町字新栄町113-1 (TEL)0136-75-7576 (FAX)050-3512-1728

(開館時間：平日10時～17時)

第9回「寿都町対話の場」開催（4月26日）

原子燃料サイクル施設等が立地する「青森県六ヶ所村」の
これまでの歩みと現状について講話を実施

講師：六ヶ所村政策推進課 吉岡課長



出身：青森県六ヶ所村泊

経歴：1990年 村役場に入庁

農林水産課、商工観光課、原子力対策課などを歴任。
原子力関連施設に係る村政に長年に亘り携わる。



放牧されている乳牛※



交通アクセスガイド※

□ 六ヶ所村ってどんなところ？

- 位置 青森県下北半島 ■面積 252.68㎢
- 人口 10,367人、5,194世帯（2020年国勢調査）
- 産業 北部は漁業、中部は商工業、南部は農業・酪農業がメイン
また、日本原燃㈱により、原子力関連施設が操業・建設



村の花
ニッコウキスゲ※

- ・漁業（漁獲数量：1,756トン 2020年海面漁業月別漁獲数量・漁獲金額調査）
- ・商工業 工業（事業所数12 製造品出荷額 約2,423億円／年 2019年工業統計調査）
商業（事業所数108 販売額 約198億円／年 2016年経済センサス活動調査）
- ・農業、酪農業

（水田、畑作、乳用牛、肉用牛 約62億円／年 農林水産省 2019年市町村別農業産出額(推計)）

※出典 六ヶ所村役場ホームページ

＜お話のポイント＞

□ かつての六ヶ所村

- ・六ヶ所村は、かつて「陸の孤島」といわれる僻地であったため、産業が全く育たないことから、典型的な出稼ぎの村だった。

□ 原子力関連施設等が建設されるまで

- ・1970年、青森県は、六ヶ所村などを開発区域とした、国家プロジェクト「むつ小川原開発（巨大コンビナード構想）」を発表したが、開発の実現には、村民の半数が立ち退きを迫られることになるため、激しい反対運動を受けるなど、実現しなかった。
- ・その後、1984年、電気事業連合会が青森県と六ヶ所村に対し、原子燃料サイクル施設の立地を要請したが、「むつ小川原開発」発表時と同様、反対運動が起きたが、「村に産業を創出し、出稼ぎをなくし、故郷で働き家族と共に生活する」という大義のもと、反対運動は急速に沈静化し、1985年、原子燃料サイクル施設の立地要請を受け入れる。

□ 現在の六ヶ所村

- ・原子力関連施設の竣工以来、固定資産税の増加により、1996年度には、国からの地方交付税をもらわない自治体となった。
- ・原子力関連をはじめ、様々な生業により、雇用が増加し、村内で就職できるようになったことから、出稼ぎをする人がいなくなった。家族と一緒に過ごせるというのは、本当に幸せなことなんじゃないかと私自身は思っている。

<質疑応答>

■高校卒業した方の雇用は十分確保されるのか？

⇒六ヶ所村の有効求人倍率は、約2倍の働き口があるため、地元での就職は100%受け皿がある。大学進学などで村を離れても、村内で就職したければ、相応のキャリアを持った人でも、村内には国の研究機関など受け入れ先はある。



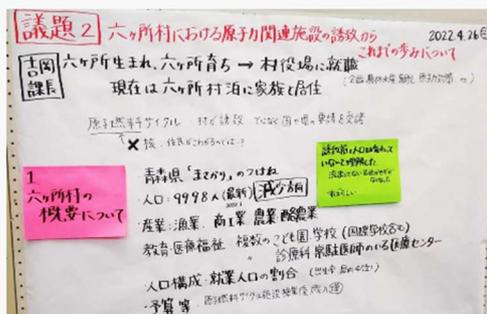
■原子力関連施設による風評被害はあるのか？

⇒青森県庁内に風評被害認定委員会があり、風評被害が発生すれば審査されることになるが、認定されたという話は聞いていない。これまで風評被害はなかったと理解。

■就業人口の割合が、1975年と2015年を比較すると、一次産業に携わる人が減り（70%→13%）、二次・三次産業に携わる人が多くなっている（29%→87%）理由は？

⇒日本原燃株などの企業に勤める人が多くなったため、二次・三次産業に携わる人の割合が増えた。

日本原燃株は、北東北（青森県、岩手県、秋田県）の中で最も大きな会社であり、推察となるが、同社の関係に従事している人の割合は約4割、さらに同社と何らかの関りを持つ会社を含めれば約7割と、村内に雇用が確保されている。



いただいたご意見やご質問は、NUMO寿都交流センターに掲示してあります。
(NUMOホームページでもご覧いただけます。)

「対話の場」における配付資料や映像などは、NUMOホームページおよびNUMO寿都交流センターでご覧いただけます。また、記録したDVDもご用意しますので、ご希望の方はお気軽に、寿都町対話の場事務局（NUMO寿都交流センター）までお問い合わせください。



原子力発電環境整備機構(NUMO)
<https://www.numo.or.jp>

NUMOホームページはこちら

NUMO

検索

■NUMO トップページから、以下の順にクリックしてください。

「文献調査の状況」→「文献調査実施中の地域」→「寿都町」→

「これまでの経緯」→「2022年4月26日 対話の場（第9回）を開催」

お問い合わせ先：原子力発電環境整備機構 NUMO寿都交流センター E-mail：suttu@numo.or.jp

〒048-0401 寿都町字新栄町113-1 (TEL)0136-75-7576 (FAX)050-3512-1728

(開館時間：平日10時～17時)

寿都町のみなさまへ

2022年7月
寿都町対話の場 通信vol.10

第10回「寿都町対話の場」開催（5月27日） 国（資源エネルギー庁）による、エネルギー政策について講話を実施



講師：経済産業省 資源エネルギー庁

電力・ガス事業部

放射性廃棄物対策課 下堀 友数 課長

<お話のポイント>

◎国内外におけるエネルギーの動向

欧米は化石燃料への依存を低減させ、クリーンエネルギーへの移行を加速。こうした中、日本でも、ロシア・ウクライナ問題や国内の電力需給ひっ迫などを踏まえ、エネルギーの安定供給の確保に万全を期し、脱炭素の取組を加速させることを政策の方向性とした。

◎原子力発電の現状とこれから

東京電力の福島第一原子力発電所の事故への反省を出発点として、安全性をすべてに優先する。世界で最も厳しい水準の規制基準に適合した原子力発電所については再稼働を進める。

◎核燃料サイクルの確立を目指す理由とは

使用済燃料の「再処理」による、高レベル放射性廃棄物の減量や、資源の有効利用などの観点から、核燃料サイクルの早期確立を目指す。

◎国による最終処分についての理解活動の推進

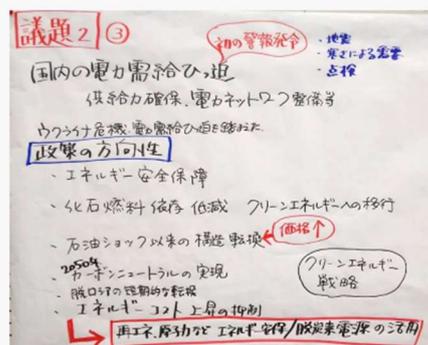
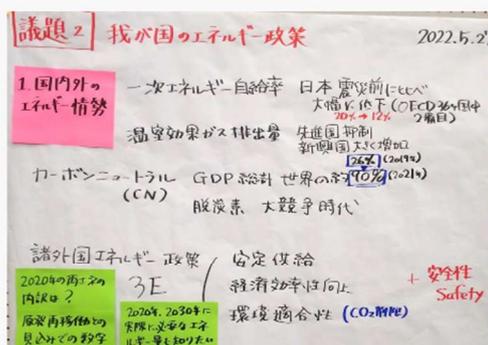
国民に理解していただくための対話、分かりやすく丁寧な広報・広聴活動などを、引き続き、全国で行っていく。



第10回「対話の場」の様子

<会員からのご意見>

- ロシア・ウクライナ問題を受け、電気代が高騰する今、エネルギー政策の方向性をきちんと伝えることが国の責任。国民が困らないよう、国の責任として取り組んでほしい。
- 国はもっと水素エネルギーの開発に力を入れるべき。
- 再生可能エネルギーが増えない一番の問題は、送電線だと思ふ。原子力発電がベースロード電源と位置付けられているため、現在停止しているにもかかわらず、送電容量が確保されてしまっている。原子力発電の稼働をやめれば、その分の送電容量を再生可能エネルギーに回すことで増えるのではないか。



いただいたご意見やご質問は、NUMO寿都交流センターに掲示してあります。
(NUMOホームページでもご覧いただけます。)

<今後の活動に関する会員からの提案について>

- 対話の場などの「公開の場」ではなく、気の合う仲間が集まって意見交換したほうが、活発に意見が出て盛り上がる。
- 地層処分事業だけでなく、寿都町の将来を考えるためにも、少人数のほうが、いろいろな話ができる。また、少人数グループでの意見交換の結果を、対話の場で報告するやり方もあるのではないか。ぜひ、少人数グループ活動を推進したい。

少人数グループによる視察や勉強会など、“まずは何かやってみる”ということになり、具体的な相談や調整を、適宜行っていくことになった。

「対話の場」における配付資料や映像などは、NUMOホームページおよびNUMO寿都交流センターでご覧いただけます。また、記録したDVDもご用意しますので、ご希望の方はお気軽に、寿都町対話の場事務局（NUMO寿都交流センター）までお問い合わせください。



原子力発電環境整備機構(NUMO)
<https://www.numo.or.jp>

NUMOホームページはこちら

NUMO

検索

■NUMO トップページから、以下の順にクリックしてください。
「文献調査の状況」→「文献調査実施中の地域」→「寿都町」→
「これまでの経緯」→「2022年5月27日 対話の場（第10回）を開催」

お問い合わせ先：原子力発電環境整備機構 NUMO寿都交流センター E-mail：suttu@numo.or.jp

〒048-0401 寿都町字新栄町113-1 (TEL)0136-75-7576 (FAX)050-3512-1728

(開館時間：平日10時～17時)

寿都町のみなさまへ

2022年8月
寿都町対話の場 通信vol.11

第11回「寿都町対話の場」開催（7月21日）

文献調査の進捗状況報告と意見交換が行われました。

📁文献調査の進捗状況（報告）

- ◆収集した761の文献・データ的具体名をリストにしました。
- ◆評価を進めるにあたっては、国の審議会において専門家のご意見を伺うなど、丁寧に取り組んでいく考えです。

※文献・データのリストは、NUMO寿都交流センターにございますので、ご希望の方はお気軽にお問い合わせください。（NUMOホームページでもご覧いただけます。）

～報告のあと、質疑応答が行われました～

- 文献調査は2年と聞いており、今秋には終了すると思っていたが、実際には、いつ頃終了する予定なのか？

⇒（NUMO）

文献・データに基づく評価は、日本ではじめての取り組みということもあり、現時点でどれくらいかかるのか見通せない状況です。

- 文献調査の終了時期が、現時点で見通せないことは分かったが、町の住民投票はいつ頃を予定しているのか？

⇒（片岡町長）

文献調査が終了し、町民のみなさんの地層処分に対する理解が行き届いた中で、住民投票を行いたいと考えているので、もう少し時間がかかると考えています。全国で複数箇所が文献調査に手を挙げ、全国各地で議論が始まれば、そうした理解がさらに行き届くような雰囲気になると思います。



📍幌延深地層研究センター視察後の意見交換

- 地下は安全な場所だということ、安全面に配慮された施設であることが確認できた。
- 風評被害が起こりそうな施設の近くに、食品関係の大企業があることに驚いた。
- 百聞は一見にしかずというから、自分の周りの町民の方にも、視察してみたらどうかと声掛けし、前向きな方もいた。
- 幌延のほか、六ヶ所村の施設なども、多くの町民の方に視察してもらいたい。
- 近々、会員3人が率先して作った少人数グループにて、六ヶ所村を訪問し、地元の方々と意見交換を行うことになっている。
(7月26日～27日で六ヶ所村を訪問し、意見交換を実施済みです。)
- 少人数グループによる視察などの活動を、高校生など若い層の人たちにも広めたらいいと思う。
- 地層処分は依然として関心が低く、選挙などでも話題にあがらない。関心を持ってもらうためにも、問題意識が高いと思われる原発立地地域の方と意見交換をやってみたら、広がりができるのではないか。



いただいたご意見やご質問は、NUMO寿都交流センターに掲示してあります。
(NUMOホームページでもご覧いただけます。)

「対話の場」における配付資料や映像などは、NUMOホームページおよびNUMO寿都交流センターでご覧いただけます。また、記録したDVDもご用意しますので、ご希望の方はお気軽に、寿都町対話の場事務局（NUMO寿都交流センター）までお問い合わせください。



原子力発電環境整備機構(NUMO)
<https://www.numo.or.jp>

NUMOホームページはこちら

NUMO

検索

■NUMO トップページから、以下の順にクリックしてください。

「文献調査の状況」→「文献調査実施中の地域」→「寿都町」→

「これまでの経緯」→「2022年7月21日 対話の場（第11回）を開催」

お問い合わせ先：原子力発電環境整備機構 NUMO寿都交流センター E-mail：suttu@numo.or.jp

〒048-0401 寿都町字新栄町113-1 (TEL)0136-75-7576 (FAX)050-3512-1728

(開館時間：平日10時～17時)

寿都町のみなさまへ

2022年10月
寿都町対話の場 通信vol.12

第12回「寿都町対話の場」開催（9月21日）

最終処分地の建設が進むフィンランド（エウラヨキ町）のこれまでの歩みと現状についてお話を伺いました。



（説明者）フィンランド エウラヨキ町
ヴェサ=ラカニエミ町長

＜職歴＞ラウマ市のメリ小中学校校長
ラウマ市の教育部長
2017年より現職



“エウラヨキ町”ってどんなところ？

- 人口 9,354人
- 産業 労働者の53%が工業、41%がサービス業、6%が農業に従事
- 原子力産業（原子力発電と共に歩んできた町）
 - ・1978年に原子力発電所1号機が稼働。現在は、2基が稼働し、3号機が建設中
 - ・使用済燃料の中間貯蔵施設、低・中レベル放射性廃棄物の処分場がある
 - ・現在、使用済燃料の最終処分場が建設中（2024年～2025年の操業予定）

＜お話のポイント＞

□ 処分場に選定される前の町の状況

- ・約6割の町民が最終処分に賛成（1999年）

□ 町にとって重要なこと

- ・安全の確保が最も重要
- ・処分地選定(2000年当時)や操業に進む際に、選択権を保有
- ・事業者などから独立した規制機関が、責任をもって安全性を検証
- ・放射性廃棄物は自分たちで処分しなければならないという責任感

□ なぜ町が選ばれたのか

- ・長年にわたり、安全に稼働している原子力発電所が存在
- ・町民の多くが最終処分を支持

□ なぜ町は受け入れたのか

- ・原子力発電所が近接しており、町民が原子力事業に馴染み、その恩恵を受けてきた
- ・町と事業者間で活発かつオープンな対話が続けられたことにより、信頼関係が構築
- ・町議会の投票結果は、20対7で賛成多数（2000年）

□ 町にとってのメリット

- ・固定資産税などの安定した収入により、長期的なインフラ計画などの策定が可能に
- ・新たな雇用が生まれ、町民の多くが原子力産業に関わる仕事に従事



<質疑応答>

■日本では、地層処分に対して不安を感じさせるような報道があるが、フィンランドではどうか？

⇒長年にわたる事業者とメディアによる円滑なコミュニケーションにより、良好な関係が維持され、公平な報道がなされている。

■フィンランドでは全国的に最終処分の議論が行われているのか？

⇒町には、原子力事業を自分事として捉えている町民が多くいるが、原子力発電所のない地域では、距離が遠いこともあり、そこまで至っていない。

■寿都町は漁業の町だが、漁師や水産加工業の状況を教えてほしい？

⇒漁師は5～6人と少ない。養殖業を営む水産加工会社がひとつあるが、漁業より農業のほうが多い。農業は、穀物やじゃがいもなどを栽培する農家が多く、フィンランドにおける典型的な地方自治体である。

■日本は火山・地震が多い国。日本は地層処分には適していないという専門家もいるが、どうお考えか？

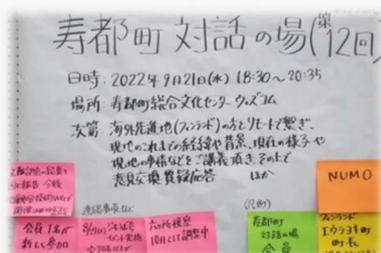
⇒専門家の方々の認識として、地震・火山の影響が及ばない場所があれば、地層処分は可能なのではないかと。

■最終処分場に選定される前と建設が進んでいる現在とでは、賛成の割合はどのように変化しているか？

⇒具体的な数値はないが、選定される前の状況と変わっていない。町民は、40年以上、原子力と付き合ってきたこともあり、強い感情をもって反対・賛成するといった現況でもなく、地層処分場を受け入れている。



第12回対話の場の様子



いただいたご意見やご質問は、NUMO寿都交流センターに掲示してあります。
(NUMOホームページでもご覧いただけます。)

「対話の場」における配付資料や映像などは、NUMOホームページおよびNUMO寿都交流センターでご覧いただけます。また、記録したDVDもご用意しますので、ご希望の方はお気軽に、寿都町対話の場事務局（NUMO寿都交流センター）までお問い合わせください。



原子力発電環境整備機構(NUMO)
<https://www.numo.or.jp>

NUMOホームページはこちら

NUMO

検索

■NUMO トップページから、以下の順にクリックしてください。

「文献調査の状況」→「文献調査実施中の地域」→「寿都町」→

「これまでの経緯」→「2022年9月21日 対話の場(第12回)を開催」

お問い合わせ先：原子力発電環境整備機構 NUMO寿都交流センター E-mail : suttu@numo.or.jp

〒048-0401 寿都町字新栄町113-1 (TEL)0136-75-7576 (FAX)050-3512-1728

(開館時間：平日10時～17時)

「寿都町対話の場」について（第13～16回）

- (1) 「将来のまちのあり姿」をテーマにした自由討論
- (2) 文献調査の進捗状況

(1) 「将来のまちのあり姿」をテーマに、自由討論が行われました

これまで4回にわたり、会員同士によるグループ討論が行われてきました。

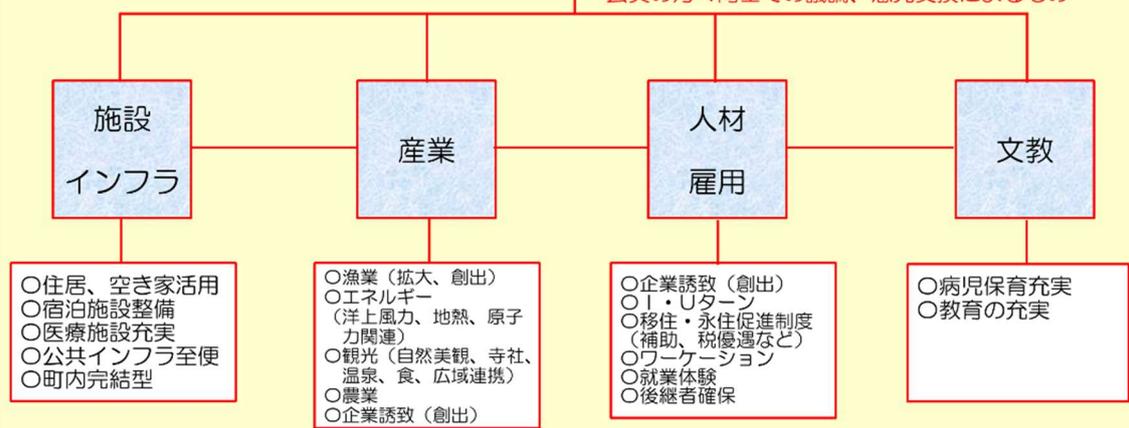


以下は、「将来のまちのあり姿」について、会員から出されたご意見（ビジョン）を取りまとめたものです。

将来のまちのあり姿 ≠ 地域振興策

すべてにおいて、バランスの良いまち

町、事業者の提案・主導・関与によるものではなく、
会員の方々同士での議論、意見交換によるもの



<会員からのご意見>

- こうした話しあいは、非常にいい機会であった。この機会を自分事として捉え、幅広く、且つ、深掘りするような話しあいを継続してはどうか。
- 町内には色々な職業の方がいるので、それぞれの得意分野で力を発揮し、アイデアや意見をいただいてはどうか。
- 若者や母親など、色々な立場の人が話しあいの輪に入れるような機会があってもいいのではないか。

「対話の場」だけの議論で終わりにするのではなく、「町内全体で議論することが重要である」との認識に至りました。

(2) 文献調査の進捗状況について

■NUMOから、これまで数回にわたり、以下の説明が行われてきました。

- ①「収集した文献・データ」に関する有識者のご意見について
- ②国の審議会において審議されている評価の考え方（評価基準など）とそれに沿った寿都町の検討例について

<評価基準などの項目は以下のとおりです>

- 断層等
- マグマの貫入と噴出
- 侵食
- 第四紀の未固結堆積物
- 鉱物資源
- 地熱資源
- 地下の状況のとりまとめ
- 地質環境特性の検討



第16回対話の場の様子

■上記の説明を受け、会員同士で、「疑問点や関心事」「どうしたら町民にわかりやすく伝えることができるのか」など、議論が行われてきました。

<会員からのご意見>

- ・適地、不適地が一目でわかるような地図など、わかりやすい資料を作成してほしい。
- ・どのような判断基準で判別されるのか。
- ・不適となった場合の理由、根拠とはどういったものか。
- ・中立的立場の方が説明すると、わかりやすいし、説得力があると思う。
- ・文献調査で不明な点は、概要調査（ボーリング調査など）を行うべき。

※なお、調査完了後、町のみなさまに、調査の結果についてご説明する予定です。

「対話の場」における配付資料や映像などは、NUMOホームページおよびNUMO寿都交流センターでご覧いただけます。また、記録したDVDもご用意しますので、ご希望の方はお気軽に、寿都町対話の場事務局（NUMO寿都交流センター）までお問い合わせください。



原子力発電環境整備機構(NUMO)
<https://www.numo.or.jp>

NUMOホームページはこちら

NUMO

検索

■NUMO トップページから、以下の順にクリックしてください。

「文献調査の状況」 → 「文献調査中の地域」 → 「北海道寿都町」
→ 「対話の場」 → 「2023年5月9日 第16回」 → 「開催通知」

お問い合わせ先：原子力発電環境整備機構 NUMO寿都交流センター E-mail: suttu@numo.or.jp

〒048-0401 寿都町字新栄町113-1 (TEL)0136-75-7576 (FAX)050-3512-1728

(開館時間：平日10時～17時)

寿都町のみなさまへ

2023年10月
寿都町対話の場 通信vol.14

第17回「寿都町対話の場」開催（9月5日）

■文献調査の評価の考え方について、NUMOよりご説明し、
会員のみなさまからのご意見・ご質問に対して、回答しました。

現在、寿都町では安全な地層処分が可能かどうかを評価する調査として、地域独自の文献・データを収集して、活断層や火山がないかなどを詳しく調べる「文献調査」を実施しています。

この「文献調査」を進める上での基準となるのが、以下の3つの考え方になります。

1. 最終処分法で定められた要件に照らした評価

- 活断層や火山などについて調べ、著しい影響を受ける場所を避けます。

2. 技術的観点からの検討

- 地下の状況について整理し、どの地層がより好ましいかなどを検討します。

3. 経済社会的観点からの検討

- 処分場の選定や選定のための調査を行う際の、法律などによる土地の利用制限や、考慮すべき点について整理します。
- 具体的には、国土利用計画法に基づき、国立公園に指定されているかなどの調査を実施します。

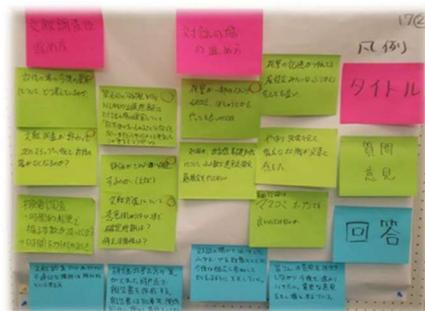
※上記1及び2について、第14～16回対話の場にてご説明しました。
3については、今回第17回対話の場にてご説明しました。



第17回「対話の場」の様子

会員からのご意見・ご質問 ~抜粋~

- 説明が難しい。対話の場に参加していない町民にもわかる資料が必要。
⇒わかりやすい表現や資料作りに配慮したいと考えています。
- 文献調査が終了し、次のステップへ行くと対話の場がなくなるのか？
⇒皆様のご意見をお聞きしながら、今後も続けていきたいと考えています。
- 土地の利用制限については、寿都では縛りが無いということで良いのか？
⇒現段階では、明らかに除外すべき区域はありません。
- ガラス固化体を埋めた後の土地はどう利用するのか？
⇒今後の事業の進展に応じて、関係自治体等と協議していきます。
- (地層処分場建設の) 地点には、住宅地を避けるなど配慮するのか？
⇒国土利用計画法に基づいた中で、環境に配慮して対応します。



いただいたご意見やご質問は、NUMO寿都交流センターに掲示してあります。
(NUMOホームページでもご覧いただけます。)

「対話の場」における配付資料や映像などは、NUMOホームページおよびNUMO寿都交流センターでご覧いただけます。また、記録したDVDもご用意しますので、ご希望の方はお気軽に、寿都町対話の場事務局（NUMO寿都交流センター）までお問い合わせください。



原子力発電環境整備機構(NUMO)
<https://www.numo.or.jp>

NUMOホームページはこちら

NUMO

検索

■NUMO トップページから、以下の順にクリックしてください。
「地層処分について」→「調査の状況と対話の記録」→「北海道寿都町」→
「対話の場」→「2023年9月5日 第17回」

お問い合わせ先：原子力発電環境整備機構 NUMO寿都交流センター E-mail : suttu@numo.or.jp
〒048-0401 寿都町字新栄町113-1 (TEL)0136-75-7576 (FAX)050-3512-1728
(開館時間：平日10時～17時)